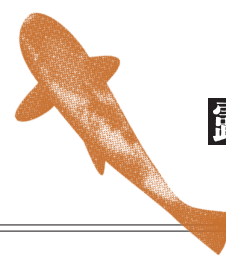


sento &
neighborhood
journalROTENBURO
YUNOHANAせんとま
ち新聞北区の
記憶あつめ編
Vol.13

露天風呂ゆの花



ABOUT

この事業は「北区政策提案協働事業」として、一般社団法人せんとまが北区と協働し、令和5年度から3カ年計画で、北区の現役銭湯全22軒(令和6年現在)をめぐる。銭湯と周辺のまちの歴史や物語を聞き取り、広く共有していくことで、多世代間の交流を促し、地域のコミュニティ再生へとつなげることを目指しています。

CONTENTS 露天風呂ゆの花紹介/記憶地図/住民かく語りき



男湯は竜頭の滝、女湯は錦帯橋のタイル絵。



露天風呂へ続く道も風情がある。

天然「湯の華」の露天風呂で
癒しを提供戦後の動乱期に開業した
赤羽の「栄湯」がルーツ

JR埼京線の浮間舟渡駅から徒歩7分のところにある「露天風呂ゆの花」。3代目の店主、飯島栄樹さんの祖父が1950年頃、赤羽で「栄湯」という屋号で開業し、1955年頃に浮間に移転してからは「浮間湯」に、そして飯島さんが継いだ後に現在の屋号に改称したという。「祖父は埼玉の本庄市出身で、戦時中は南満洲鉄道の職員だった。現地では父が生まれ、終戦後、祖母は父を含み三兄妹を連れて一足先に帰国したが、祖父は捕虜となり3年ほどシベリアに抑留された後で帰国したそう」と飯島さんは話す。しかも帰国後は赤羽の闇市で石鹸などを売って資金を貯め、映画館が銭湯で迷った末に、栄湯を開業したというから、その苦労は想像を絶するものだったに違いない。

飯島さんが子どもの頃の銭湯は宮造り建築で、周囲に高い建物があったこともあって「浮間のどこからでもうちの煙突が見えていた」と言う。また、飯島さんの母の実家も池袋本町で新月湯という屋号の銭湯を営んでいた。飯島さんが生まれた1970年頃は、その銭湯の紹介で女中や三助を雇っていて、幼少期までは「一緒に卓を囲んでご飯を食べたり、遊んでもらったり。なかでも、女中さんの「さっちゃん」は親代わりのような人だった」と言う。

苦勞の末に定着した
天然湯の華の露天風呂

飯島さんにとって、大きな転機となったのは1995年の阪神・淡路大震災だった。「一番頭さんの実家が被災し、退職することになったため、父は廃業もやむなしと考えていた。当時の私は学生で、普通の会社で就職することを考えていたが、祖父から『今までお世

話になってきた地域のお客様のために廃業だけは避けたい。家業である銭湯を継いでくれないか」と言われ、思い切ったと銭湯を継ぐことにした。それから飯島さんは話す。それからは母の実家の池袋の店や母方の親戚が営む横浜の店などで銭湯の仕事を学んだという。



こだわりの「湯の華」入りの露天風呂。

以来、飯島さんは屋号を「露天風呂ゆの花」に改め、さまざまな取り組みを展開していった。「地域の人たちに気軽に本格的な温泉気分を味わってもらうため、燃料をガス化したことでできた空きスペースに露天風呂をつくり、天然「湯の華」を溶かしてみた。現在は岐阜県飛騨から取り寄せているが、『湯の華』特有の香りが控えめなので、『子どもも入りやすい』と喜ばれている」と飯島さん。もっとも、その使用方法を確立するまでには紆余曲折があった。「不純物をきれいに取り除いたり、成分がしっかりと出るように布に入れてもみほぐしたりといったコツを掴むのも大変。さらに、風呂や金の手入れを念入りにする必要があったりと、思いの外、苦勞した」と話す。だが、「その分だけ『湯冷えしないし、肌がツルツルになる』と評判」と飯島さんは微笑む。

もちろん、露天風呂ゆの花には「湯の華」以外にも、温泉地のような風情ある風呂のつくりや千鳥破風を模した玄関、和風のフロントなど、癒しのポイントが満載。おかげで、コロナ禍が収束してからは「外国人や若い人たちがよく来てくれるようになった」とか。これに末永く残ってほしい癒しの銭湯だ。

せんとま情報 SENTO DATA

露天風呂ゆの花

露天風呂ゆの花 東京都北区浮間4-6-10 JR埼京線「浮間舟渡駅」から徒歩7分
15:00-23:00 定休日:月曜

フロント 露天風呂 薬湯 荷物一時預かり ランドリー

※「記憶地図」は、一部ご近所の皆さまの記憶や思い出を元に作成しています。事実と異なる表記があるかもしれませんが、ご了承ください。

● 現在も営業中 ● 閉店

記憶地図

露天風呂ゆの花編

ワークショップや近隣住民の方へのインタビューを通して見えてきたまちの記憶地図。かつての銭湯界隈のあたたかいまちの風景を想像しながら、湯上りに歩いてみましょう！

やきとん松月

コの字型のカウンターがあり、昔懐かしい雰囲気が漂う下町酒場。現女将が最初に勤めていた会社の寮がこの近くにあり、露天風呂ゆの花に入った帰りに松月のバイト募集のチラシを見て働くようになったというご縁も。



粋肴しま田

前身は1965年創業の「しまだ大衆食堂酒屋」。30年ほど前に現店主が引き継ぎ「粋肴しま田」として気の利いた肴や美酒を提供。新鮮な刺身や旬の食材を使った創作料理はどれも格別。月に一度の「まぐろの日」には脂の乗った鮭コースメニューを堪能できる(要予約)。

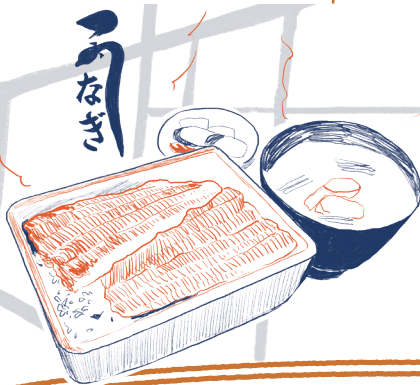


フレッシュフーズたけのうち

夕暮れの中、炭火で焼いた焼き鳥の香ばしい匂いを漂わせる「フレッシュフーズたけのうち」。もともとは八百屋・惣菜屋だったということもあり、丸ごとニンニク焼きやまいたけのバター炒めなど野菜のメニューも絶品。



提供: 竹ノ内秀雄



うなぎ行田屋

1948年創業の「うなぎ行田屋」。早稲田鶴巻町で開業し、雑司ヶ谷に移転、その後昭和40年代に浮間に店舗を構えた。一年を通して柔らかい鰻を仕入れて蒸さずに焼き上げる。たれは初代から変わらない味を守っている。

露天風呂ゆの花

温泉気分が満喫できる。「湯の華」入りの露天風呂はもちろん、さまざまな心遣いと工夫を凝らした風呂は多くの人々から長年愛されている。50年通っているという常連は「ここがないと生活できないほどなくてはならない場所」と語る。

住民かく語りき

露天風呂ゆの花周辺



Photo / Mari Okamoto

11月9日、記憶集めトークイベントが実施された。これは露天風呂ゆの花周辺のかつての写真や地図を見ながら地域の記憶を掘り起こしていくというものだ。常連をはじめとした参加者に思い思いに語り合ってもらった。

まず話題に上がったのは浮間の地域性。周囲に大規模な団地があり、学校も多く立地していることから、露天風呂ゆの花は昔から子どもたちにとっても憩いの場になっていたという。店主の飯島さん自身もいたそうで「風呂に潜って、底の方にある穴を通ったりして遊んでいた。うだ。ちなみに、一緒に遊んでいた友人は今でも仕事の良きパートナーだ。

また「今こそ浮間中央駅前商店会をはじめ、周囲の商店の数が減ってしまったが、かつては飲食店も小売店もかなり充実していた」とのこと。さらに、露天風呂ゆの花の建物には店舗テナント用スペースがあり、以前は「はちや」というラーメン店があった。飯島さん一家は味噌ラーメンが大好きで、遠くまで通ったそう。現在は有名店の修行を経て独立開業した味噌ラーメン専門店「うなぎ」が入居。大変繁盛していて、こちらも看板メニューの味噌ラーメンが絶品とのこと。「店は少なくなりましたが、やきとん松月やうなぎ行田屋」など、代替わりしても味が引き継がれるおいしいお店が近隣にある」といった声も上がっていた。

風呂に関しては、やはり名物の天然「湯の華」入りの露天風呂の話題が多く、飯島さんも「近所のおばあさんたちが「肌がツルツルになったから触ってみて」と冗談交じりに褒めてくれるようになった」と話していた。ちなみに、地元の常連さんは自分の親のような感じで「あなたは私のおっぱいを飲んで育ったんだよ」という方もいるとか。

昔から地域のために奔走してきた飯島さん一家の思いは、地域の皆さんにもしっかりと届いているようだ。次回も参加者とともに、多くの記憶を集めていきたい。

露天風呂ゆの花に遊びに来てね！



COMMENT

変わる街並みと変わらない人情に囲まれて
飯島栄樹さん(露天風呂ゆの花3代目店主)

1985年にJR埼京線が開通する前までの浮間は、赤羽から車か国際興業バスでしかアクセスできなかった。ただ、周囲に大規模な団地や大手企業の工場や拠点、タクシー会社などがあるため、うちには昔から浮間で暮らしたり、働いたりしている人たちが通い続けてくれていました。常連さんの中には知覚特攻隊の生存者の大工さんもいて、よく戦争の話をしてくれたことを覚えています。

JR埼京線が開通してからは次々とマンションが建ち、人口が急増しましたが、その頃には風呂付きの住宅が一般化していきました。また、近隣に大型スーパーマーケットができたり、簡単に池袋などに出られるようになったりした結果、浮間中央駅前商店会の多くの店が廃業し、通りがだいたいさびしくなっていました。

ただ、それでも「フレッシュフーズ」などのうちや「やきとん松月」など気軽に立ち寄れるおいしい飲食店があるので、最近では風呂上がりに一杯飲んで帰るお客さんも増えています。あと、小学校の近くには子どもたちの憩いの場になっていくんですよ。昭和の懐かしい風情はこの地域の大きな魅力だと思っていて、皆さんと一緒に地域を盛り上げていければと思っています。

わたしのせんととうとまち
— 北区の記憶あつめVol.13 露天風呂ゆの花 —

活動支援の協賛・寄付を募集しています
<https://bio.site/sentotomachi>



発行：一般社団法人 せんととうとまち

制作統括：一般社団法人 せんととうとまち 栗生はるか 事務局：渡邊勢士 編集・執筆：熊本鷹一 グラフィック：株式会社 PIN DESIGN 菅原悠介/岡本茉莉

協力：東京都北区浴場組合

北区政策提案協働事業「銭湯を核とした多世代間の地域コミュニティ再生と記憶アーカイブによる歴史的・文化的まちづくり」(担当：北区政策経営部シティプランニング戦略課)にて制作。

一般社団法人せんととうとまちは、銭湯とその周辺のまちを共に考え、関係性を編み直しながら、銭湯をめぐる生活文化を再生・活性化していくことを目指しています。